

会員各位

平成24年6月1日

協会だより234(6月号)

触媒資源化協会

1. 協会よりのお知らせ

<トピックス>

- 第213回月例会（講演会）の開催は7月13日（金）14時からニュー新橋ビルB2（JR新橋駅前）のニュー新ホールで開催
講演演題は「有機EL関連」と「バイオマスリファイナリー関連」と2題共に講師は産総研の研究者による講演です。



狭い庭に今年も健気に咲く我家の牡丹一輪。

- 協会よりのお知らせ
【実施済事項】
- 【予定事項】
経産省よりの連絡
- 事務局より（六月度の予定）
- 伊勢神宮、熊野三山、高野山詣で
- 【雑学】奥の細道・バスツアー
(須賀川番外編)

[実施済事項]

- ① 協会だよりー233（5月号）をメール&郵便で送信（5/1）
- ② 第213回月例会幹事会（5/17）
日 時：5月17日（木）13:00～14:30
場 所：ニュー新橋ビル10Fミーテングルーム（港区新橋）
出 席：(株)フルヤ金属、アマタ(株)、日本無機化学工業(株)、石福金属興業(株)、事務局の7名
- ③ 第一回運営委員会
日 時：5月17日（木）15:30～17:00
場 所：堺化学工業(株)東京支店会議室（千代田区岩本町）
出 席：運営委員、第213回月例会幹事会社、専務理事の11名

【予定事項】

- ① 第215回月例会（一泊研修会）幹事会
 日 時：6月20日（水）16時～
 場 所：協会事務所（新橋）
 出 席：DOWA メタルマイン(株)、小島化学薬品(株)、日誠金属(株)、振興化学工業(株)、事務局の予定。
- ② 第214回月例会（見学会）幹事会
 日 時：6/1 現在調整中
 場 所：協会事務所かニュー新ミーテングルーム
 出 席：(株)光正、三菱マテリアル(株)、東京化学開発(株)、日揮触媒化成(株)、事務局の予定

2. 経産省よりの連絡

- ・ 5/9 【周知依頼】今夏の電力需給見通しについて(5月8日現在)(経済産業省化学課)
- ・ 5/11 【周知依頼】電力需給検証委員会(第5回)(経済産業省化学課)
- ・ 5/15 【周知依頼】今夏の電力需給見通しについて(5月15日現在)(経済産業省化学課)
- ・ 5/16 【周知のお願い】関西電力の需給ギャップが300万 kW 改善(今夏の電力不足はマイナス5%程度まで軽減)との報道について(経済産業省化学課)
- ・ 5/16 再生可能エネルギー固定価格買取制度について(経済産業省化学課)
- ・ 5/18 【周知依頼】今夏の電力需給対策について(経済産業省化学課)
- ・ 5/18 【開催案内、5/23(水)11:00 まで】業務プロセス改革計画等に関する説明会(内閣官房 IT 室主催、団体対象)
- ・ 5/22 【情報共有 & 周知のお願い】自家発電設備導入促進事業費補助金(4次公募)についてのご案内
- ・ 5/24 【周知のお願い】平成24年度全国安全週間(7/1～7、準備期間 6/1～30)(経済産業省化学課)
- ・ 5/24

3. 事務局より（6月度の予定）

曜日	月	火	水	木	金	土
1 週	5/28	5/29	5/30	5/31	1	2
	○	○	×	×	○	×
2 週	4	5	6	7	8	9
	×	○	×	×	○	×
3 週	11	12	13	14	15	16
	×	○	×	○	×	×
4 週	18	19	20	21	22	23
	△	○	215 幹事会	×	○	×
5 週	25	26	27	28	29	30
	札幌	←	余市	帰京	○	×

事務局延べ出勤予定：10日（○；終日、△；半日、×は休日）。

4. 伊勢神宮、熊野三山、高野山詣で (OB 鶴岡武氏紀行文)

紀伊半島秘境と伊勢、熊野、高野山詣でを昨年計画したが、台風による大水害で中止となり今年3月末、2泊3日のツアーで実現した。新幹線で名古屋に行き、バスに乗り換えての観光となる。愛知県から三重県桑名市に入り、木曾川、長良川、揖斐川を渡り四日市、鈴鹿、亀山、津、松坂を経て伊勢市に着く。先ず伊勢外宮に参拝し境内を散策したおり、天皇家の神馬厩を幾つか見掛たが一匹も居らず。続いて少し離れた内宮即ち、皇祖天照大御神をおまつりした皇大神宮を訪れた。来年が20年に一回の遷宮造営の為幕に覆われた正宮が多く残念だった。参拝者は五十鈴川で御手洗いをするが、無理な姿勢で“ドボン！”と身体全体を清めてしまう人が稀には出るらしいが、特別な御利益は無くせいぜい風邪を引く位だ。何度目かのお参りだが御神木の大きく太いには神々しさを感じず。神主を同伴した一人の紳士が宮殿に入り礼儀正しく参拝しており、皇族の方らしいが誰だか分からず。朱印帳に記帳して貰い外に出たが、奉納相撲が近いらしく幟が風になびいていた。隣の商店街おかげ横丁見物をしたが、長さ300米両側に古い建屋がぎっしりと並び、中間に名物「赤福餅」の本店があり超満員である。以前偽装表示で行政指導を受けたが、今は元に戻り大繁盛でやっと2個程求め試食したついでに、宝永四年創業の古看板をバックに記念写真をとる。夕方鳥羽市の伊勢志摩ロイヤルホテルに着きほっとする。



翌朝小雨の中出発し、真珠ショッピング後熊野川沿いに走り、支流北山川でウオータージェット船で瀬八丁巡りをする。切り立った溪谷の処々で桜が咲き、紫の三つ葉躑躅等を観賞出来満足の一時間だった。ニュースに依ると、翌日から一年振りに杉丸太連結の筏下りが開始された由。次は本命の熊野詣が始まり、熊野速玉大社に続いて急な石段400段を上り那智山青岸渡寺、熊野那智大社をお参りしてから下って高さ133米の那智の大滝



見学をした。雨は止んでいたが昨夜の雨で水かさが増し、見応えのある滝であった。しかし石段上りは相当きつく自分には限界である。仕上げに世界遺産熊野古道を30分歩いた折、貸衣装をまとった平安時代の絵巻物のように美しい二人の女性に会い、森鷗外作、山椒大夫の安寿姫が連想された。



疲労困憊の一日が終わり、宿の勝浦温泉ホテル浦島に港から船で行く。島に一軒のみのホテルだが巨大宿であり、2800人が泊れ、館内に六つの温泉があり、ラリーをすると商品が貰えるが10分も要する遠くの湯もあり大変だ。野天風呂は海に繋がって突き出ている洞窟で、温泉天国忘帰洞と玄武洞は有名で、紀州の殿様が余りの心地良さに帰るのを忘れたからこの名がついたらしい。子供たちには良いが老人には広過ぎて困る。

最終日は秘境十津川村に向かう。神武天皇東征の際に道案内に立った八咫鳥が祖先ともいわれるこの村は、保元の乱や南北朝時代、江戸時代の大坂の陣、幕末の天誅組などにも登場し、其の名が知られているが、ものすごい山の中である。和歌山県の20%を占める面積で96%が山林の日本一大きな村である。

熊野川を遡ると熊野本宮大社に着く。古来より熊野古道や水路を使い天皇や将軍が詣でており、熊野三山の中心で全国に3000社ある熊野神社の総本宮、熊野詣での目的地として古の人々が神を感じた圧倒的な存在感を包み込むような安らぎに満ちていると案内書にある。

境内で平安装束をまとった新郎新婦が挙式をあげていた。樹齢数百年の珍しい榎（なぎ）の樹もある。参拝し十津川村を奥地へ進むと、昨年9月の大水害の爪痕が未だ残っており、当時川の水位はバスの天井を超える程で橋は流され、水没した家等が無人で放置されていた。平坦な土地は殆ど無く、猫の額ほどの畑で野菜等がつくられており田圃は皆無である。昔はまたぎ等が本業か？今は林野庁の役人やダム発電所の人達が住んでいる。

途中に大小60個余りの吊り橋があり対岸住人の重要な生活道に成っている。

最も大きな「谷瀬の吊り橋」は昭和25年に周辺住民が一戸二十万円出し総額七百万円で完成し、生活道は勿論、観光にも利用されている。全長297米、高さ54米で通路は木板4枚で両側と外側は単純な網で真下が見え、少し風で揺れ渡れない人もいた。更なる奥地の猿谷ダム辺が分水嶺で川は熊野灘と反対の紀伊水道方向に流れる。尚山間道を新宮から五条市往復の定期バスが運行されており、全く人気のないバス停もあり説明では、山頂の住人が最短距離で降りて来ると此の停留所に来る由、日本一長いバス



路線である。

西吉野町を抜け、五条市を通り、最終観光地高野山に上る。時間が無く奥の院迄バスで行き、専従案内人から一時間説明を聞きながら歩く。高野山は和歌山県の南方海拔千米の山下にあり、周囲を高嶺に囲まれ東西6キロと3キロの盆地で下界より15度も気温が低く冬は-20度にもなる。弘法大師の開祖の真言宗総本山で現在山には117の寺があり、千戸の民家と四千人の人が住んでおり高校と大学もある。昔から天皇、将軍の参拝があり、高野山と伊勢を結ぶ道が正式の熊野古道だったが、今は熊野本宮と伊勢、勝浦、田辺を結ぶのが世界遺産に成ってしまった。さて奥の院には沢山の墓碑があり、其れも大名家の墓が多い。



建て始めたのは鎌倉時代と推定されるが、最も盛んに建碑の行われたのは江戸時代であり、徳川家にならって全国各地の大名が競ってここに建碑が行われた。瀬戸内海から石材を運び莫大な経費を要した。一般庶民も宗旨の別なくこれにならい、今日の大墓群となり約十万基とも言われている。重文指定は上杉、結城秀康、お江の3基で徳川二代将軍秀忠夫人お江の墓は高さ10米、台石八畳敷と最大である。勿論供養塔であり、墓は港区芝増上寺にある。変わった例として秀吉の朝鮮出兵時の相手国の戦死者に対し朝鮮式の円筒形土饅頭墓もあり、会社の慰霊碑でロケットの墓碑には驚いた。

高野山名物・お土産として高野豆腐や、苗木高野槇がある。御寺では精進料理だが商店の裏通りには幾らでも魚や肉が販売されている。ハードスケジュールの旅を終え、岸和田経由で大阪に出、新幹線で帰途に着いた。今回多くの神社仏閣で朱印帳に記載して貰ったが、冥土へ持参すると閻魔様の針の山でも痛く無い由？

以上



伊勢神宮のご神木の前で鶴岡さんとご神木の太さを比べてください。

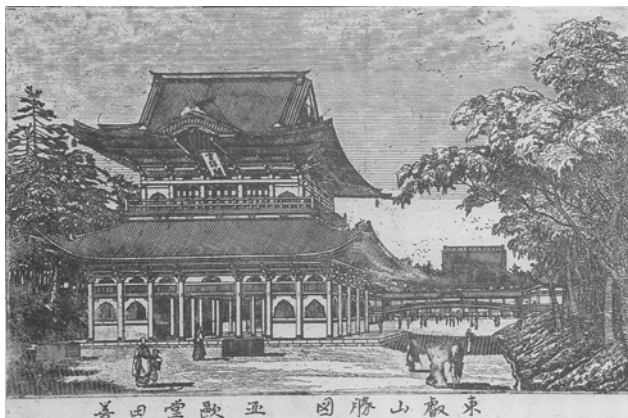
鶴岡武さんは現在、会員会社アジア物性材料株式会社の取締役会長として活躍中の現役です。協会では長年、副会長、第八代会長としてご活躍されました。協会で役員を経験したOB、元専務理事等で立ち上げたスイジン会（OB会）のメンバーでもあり、協会ゴルフコンペにもほぼ欠かさず出席されています（小林記）。

5. 【雑学】奥の細道・バスツアー（須賀川番外編）

今回はツアーで訪問した福島県須賀川市に、おくの細道以外にも紹介したい人物がいます。芭蕉の訪問した時代のだいぶ後のことですが、それはみちのく須賀川に生まれた銅版画家・亜欧堂田善です。田善は白河藩の藩主であった松平定信に見出され、命により江戸で銅版画を学び、遠近法、陰影法の表現画法を完成させた我が国の代表的な洋風画家です。

寛延元（1748）年、奥州須賀川町秀海（現・須賀川市諏訪町）に生まれ本名は永田善吉と称しました。田善の兄丈吉が家業の染物屋を継ぎ、その兄が狩野派に学び崑山と号しました。田善はその兄に絵を学びます。松平定信は老中職を辞した後、田善47歳（寛政6（1794）年）の時、領内巡視で立ち寄った須賀川で田善作の「江戸芝愛宕山図」屏風を見て感心し、田善を谷文晁に入門させました。

亜欧堂とはアジアとヨーロッパの技術を併せ持ったという意味から付けられたといわれています。生涯沢山の銅版画を描いていますがその内の一枚「東叡山勝図」を紹介します（生誕250年記念特別展・須賀川市立博物館冊子より）作品の多くは須賀川市立博物館に保存され、一部は神戸市立博物館や東京国立博物館にあります。郷里福島と東京を結ぶ絵師として去る平成24年3月10日銀座の松屋アネックスビルで福島県須賀川が生んだ偉人「亜欧堂田善」フォーラムが開催されています。



田善は文政5（1822）年、郷里須賀川で75歳の生涯を閉じました。須賀川市役所のほぼ近くの小公園内に亜欧堂田善生誕の地の石碑と胸像が建立されています。市立博物館の館長さんは相楽等躬と芭蕉さんにも詳しくお話も上手な方です。

市立博物館の館長さんは相楽等躬と芭蕉さんにも詳しくお話も上手な方です。



【文責・専務理事】